



自立活動だより



自立活動部
R3年3月号
第7号

今号では、先日新たに導入された感覚遊具の紹介とともに、「感覚統合」について簡単にお話したいと思います☆

☆感覚統合について

感覚統合とは、子どもが自分を取り巻く世界や自分自身のからだの情報を、能動的に意味ある情報として受け取り、それを組織化(消化、吸収)して、環境に適応したり、働きかけたりするプロセス全般を意味します。

自立活動の時間に、粗大遊具(感覚遊具)を利用して身体を動かして遊ぶ活動を設定することがあると思いますが、それは、感覚統合の視点から見て、児童生徒の発達において必要な要素が多く含まれているからです。遊びを通して、バランス、姿勢保持、認識力、状況判断力等の感覚を養い、環境に適応するための力を育てることが大きなねらいになります。



① プラットホームスイング

【説明：パシフィックサプライ HP】

- ・子ども自身によるバランス獲得、姿勢制御を中心とする遊具。
- ・バランス(腹這い、四つ這い、座位、立位等)をとろうとすることによって全身の筋の同時収縮を引き出すことができる。
- ・4本のロープをトップで固定すると、プラットホームは安定し、座位または腹這いになり振子運動や回転運動を得ることができる。

対象：体重70Kgまで

② スペースリング

【説明：パシフィックサプライ HP】



- ・立体空間により、多彩な訓練が実現する。
- ・回転運動・振子運動・回旋運動による前庭刺激が期待できる。
- ・ジャングルジムのように登ったり、二人でシーソーのように動かしたりすることができる。

対象：体重120Kgまで



③ タワーラダー

【説明：書籍「感覚統合Q&A」】

- ・はしごをタワー状にした遊具で、身体の緊張を維持しながらバランスを取ったりすることで固有刺激を体験することができる。
- ・自分の身体をイメージして、スムーズに動かすことができる運動企画を育てる。

対象：体重70Kgまで

【使用方法について】

- ・遊具使用時は、必ず下にマットを敷いて落下時の安全性に配慮して下さい。
- ・②のタワーラダーの下の4本のロープ部分(矢印部分)には、砂袋を置いて固定して下さい。
- ・上から吊るす際のロープの長さ調整は、必要に応じて各自でお願いします。
- ・設置の際は、揺らした際に遊具同士がぶつからないよう間隔を取って設置するようにして下さい。
- ・他の貸し出し物品と同様に、使用後は必ず消毒を行い、元の場所に返却して下さい。

※貸出しの仕方については、他の感覚統合遊具と同じ手順になるので前回の自立活動だよりをご覧ください

◇あとかき◇

感覚統合理論について提唱しているアメリカの作業療法士エアーズ博士は、学習面につまずきを見せる子どもたちの多くに姿勢やバランス、注意集中力など、一見学習とは関係が薄いように見える発達の領域にも様々な課題を見せる子どもが多いことを見出しました。また、授業中に、「姿勢をよくして」「字を綺麗に書いて」といくつもの課題を同時に要求されることがあります。これら一つ一つが難しい子どもたちにとっては、この中の一つを頑張るだけでも精一杯になってしまいます。姿勢の保持や聴覚的注意が自動的にできるようになれば、字ももう少し丁寧に書けるかもしれません。感覚統合は、まずこのような土台を支えることで学習機能に貢献しています。こういった意識を持ち、感覚遊具等を活用しながら、感覚・運動面の身体への教育的アプローチを実践していければ児童生徒の発達につながります。使用にあたってわからないことがあれば自立活動部までご相談ください!

☆書籍の紹介☆ 今回、参考図書として使用した『子どもの理解と援助のために 感覚統合Q&A』では、子どもが抱える発達上の様々な問題を日頃の行動の中から読み取り、子どもが必要としている援助を考えていく際の知識を幅広く解説しています! 東山の机の上に置いてありますので、ご興味のある方はお声かけ下さい♪